

# 高粱の農業く産地を守ろう

## 市長とふれあいトーク開催



(文化交流館)

市は、テーマを定めて各地域から集まっていたいただき、市長と懇談する「市長とふれあいトーク」を行っています。今月号では、12月21日に開催した「高粱の農業く産地を守ろう」の様子をお伝えします。各地域で農業に携わっている皆さんに参加いただき、本市の基幹産業である農業について、それぞれの立場から思いを語っていただきました。

■問い合わせ 企画課公聴広報係(TEL)0210)

**市長** 「農業」をテーマに皆さん

とお話したいと考え、今回ふれあいトークを開催させていただきました。一口に農業といっても、林業、畜産業などもあり、多方面にわたります。

近年、地方を取り巻く環境は厳しくなっています。政権交代後、農業面も含め具体的な方針が未だ示されておらず、例年ならこの時期に示される国の予算方針もまだの状況です。

現在、市の10年先を見据え、新総合計画と第2次行財政改革大綱を策定しています。平成27年度以降、財政面での合併による恩恵がなくなり、平成32年度には70億円強の財源不足が生じる

見込みです。

そのため、これからはお金の使い方を選択していかなければなりません。農業は本市の基幹産業でもあり、市内でモデルとなる施策が展開できればと考えています。空き農地対策、就農、特色ある取り組みなどいろいろと議論を交したいと思っています。

### 農地の活用について

**東森** 家の近くの良い田畑が遊休農地になっていくのは残念で



東森さん



市長とふれあいトーク出席者（敬称略）

藤田 泉（高粱）平成11年に新規就農者として移住し、トマトを栽培。就農アドバイザー  
牧野 義広（高粱）農事組合法人宇治高原農園代表で、ピオーネを栽培  
三村 卓巳（高粱）ゆめ市場店長で、市内直売所の連携組織「直ちよくねっと」代表  
東森 邦男（有漢）高粱農林業担い手育成対策協議会会長。市農業委員会会長  
芳賀 晴之（成羽）農業士。ピオーネを栽培し、ピオーネスクールほ場提供者  
仲山 潔俊（川上）市認定農業者協議会会長。JAびほく管内トマト部会長  
三宅 信弘（川上）有限会社濱農産代表取締役で、トマトを栽培。就農アドバイザー  
中岸 廣之（備中）平川村定住推進協議会会長。ピオーネを栽培  
中迫 貞子（備中）農業士。トマトを栽培し、平成5年から新規就農者の受入農家  
山田 徹（備中）平成5年に新規就農者として移住し、トマトを栽培。就農アドバイザー

オブザーバー

桑田 和哲（高粱農業普及指導センター所長）  
藤本 和義（農林課長）



牧野さん

す。高齢化の問題もありますが、農業が若者に魅力を感じさせていないことにも問題があると思います。ただ、今の農業の厳しい状況を考えると、なかなか若者に勧めることもできません。牛の放牧で荒れ地を農地に戻す取り組みも行われていますが、農業委員としても何とかしなければと思っています。

**牧野** 各地域の中心部でも作り手がなくなっています。私も今年から就農希望者の受け入れを始めましたが、就農者が農地を借りたいと考えても、誰に相談してよいか分かりません。農地を使いたい人、使ってもらいたい人をつなぐ組織が必要だと思います。行政がそういう役割を担うことができればうまくいくのではないのでしょうか。

**市長** 遊休農地の利用については、市内の空き農地の状況は調査済みで、現在、市内に500軒ほど遊休農地があります

が、そのうち200軒ほどはまだ農地に戻せそうな状態です。その農地を所有者からお借りできるかという問題はありますが、農地情報の一元化と併せて検討する必要があると思います。

**三村** 市内の直売所の農作物は飽和状態で、県南のスーパーや百貨店などの販売所へ卸すこともありますが、高粱の野菜は評判が良いです。買い手業者からはもつと卸してほしいとの要望もあります。その流通に対応するには耕作地が増えないと難しい状況です。

**市長** 市内には小規模な農業をしている人も多いため、そうした農作物を売ってわずかでも収入になれば、作ることも楽しみになるのでは。そのためには市外への販売ルートを開拓していかなければなりません。

**中迫** 農業には農地だけでなく水が必要になります。小規模でよいので、水を確保できる基盤整備を行うのもよいのでは。

**市長** 小規模の基盤整備については、平成24年から川上町の畑地かんがい整備に取り組みこととしていますが、どの地域にも